



故正三位勲二等町田咲吉勲章加授

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和六年七月二十一日

内閣總理大臣男爵若槻禮次郎

内

閣



賞勳局事務第一〇四號 内閣 文部省 第八号

昭和六年七月十三日

昭和六年七月十三日勅令

昭和六年七月二十日 内閣書記官長

内閣書記官 官印

内閣總理大臣

賞勳局總裁

故正三位勳二等町田咲吉儀ハ明治二十五年  
東京帝國大學農科大學ヲ卒業シ爾來  
農事試験場技師統監府勸業模範場  
技師統監府技師ニ歷任シ同四十三年  
七月東京帝國大學教授ニ任セラレ水産  
學第三講座ヲ擔任シ大正十三年十月  
農學部長ニ補セラレ任ニ在ルコト三ヶ年ニ

賞勳局

及ヒ後昭和五年三月教授ヲ辭ス此ノ間  
常ニ本邦内地ハ勿論朝鮮ノ産業開發  
ニ盡瘁シ或ハ人造肥料ノ普及獎勵ニ  
努メ次テ肥料ノ改良人造肥料製造ニ  
力ヲ致シ又不正肥料ノ検査取締ノ急  
務ナルヲ主張シ之カ手段方策ヲ建言  
シテ今日ノ肥料検査事業ノ基礎ヲ作  
リ且多年自ラ主任ト爲リテ多數有爲  
ノ検査事務ニ從事スル技術員ヲ養成  
セリ尚朝鮮ニ於テハ原始未開ノ域ニ在

リシ同地ノ農業ニ對シテ其ノ改良上採  
ルヘキ的確ナル方針ノ樹立ヲ促シ特ニ土  
地調査ノ必要ヲ唱導シ且之ヲ實行シ  
以テ技術上ノ基礎ヲ固メタリ又同人ハ  
本邦水産工業及水産物加工ノ技術ヲ  
研究シ斯業ノ發展ニ貢獻スル所尠カ  
ラス特ニかに罐詰肉ノ變質黒變ニ關  
スル同人ノ研究ハ其ノ原理學術界ニ廣  
ク認めラレ之ニ基ク改良ノ結果輸出水産  
製品ノ聲價大ニ高メラレ重要商品トシ

内閣

テ世界的ノ位置ヲ獲得スルニ至リタル  
等其ノ功績顯著ノ者ニ候處本月十三  
日死去セル趣ニ付此際特ニ同日附ヲ以  
テ旭日重光章ヲ加授セラレ度此段  
允裁ヲ仰ク

改正三位勲二等 所田咲吉

授旭日重光章

右、明治二十五年七月東京帝國大學農科大學ヲ卒業シ二十六年六月農事試験場技師三十九年六月統監府勸業模範場技師四十年三月統監府技師ニ歴任シ次テ四十一年三月文部省ヨリ水産製造學研究ノ爲獨國及米國へ留學シ命セラレ四

文部省

十三年七月歸朝ト共ニ東京帝國大學教授ニ任セラレ水産學第三講座ヲ擔任セリ大正十三年十月農學部長ニ補セラレ任ニ在ルコト三箇年ニ及ヒ後昭和五年三月シ以テ教授ヲ辭任スルニ至レリ而シテ此間明治三十八年五月清國蒙古ニ差遣セラレ又大日本農會常議負議長トシテ多年會務ニ執掌スルニ斯クテ公職ニ在ルコト前

後實、三十有七年、其間常、本邦内地、勿論朝鮮、産業開發、盡瘁、我國農學界、耆宿トシテ、將又其恩人トシテ、景仰セシワ、ヤリ、今茲、其業績、就テ概説セシニ、先ツ同人ハ、夙ニ人造肥料、普及獎勵、努メ、現在我國人造肥料、普及獎勵、努メ、現在我國人造肥料消費年額約三億圓、巨額ニ達シ、從テ農産、

文 部 省

激增ヲ来セルハ、同人、力ニ負フ所多大ナルヲ認ム、次テ肥料、改良人造肥料製造ニ力シ、致シ始メ、不正肥料、検査取締、急務ナルヲ主張シ、之カ手段方策ヲ建言シテ、今日、肥料検査事業、基礎ヲ作リ、且多年、自ら主任トナリテ、検査事務ニ従事スル、技術員、教育ニ當リ、多数有為、技術員ヲ養成セリ、現今肥料検査事務ニ

携ハル技術者ニシテ直接間接同人、  
薰陶ヲ受ケザルモノ殆ト稀ナリトス  
又同人ハ朽木縣渡瀨川沿岸ノ  
鑛毒並ニ愛媛縣別子ノ煙害及  
鑛毒事件ニ關シ學術上ノ研  
究ヲ遂ケ之カ解決ニ多大ナル  
成績ヲ擧ゲタリ 尙朝鮮ニ於テハ  
原始未開ノ域ニ在リシ同地ノ農  
業ニ對シテ屢々有力ナル建策シ  
ナシ其改良上採ルヘキ的確ナル方

文部省

針ノ樹立ヲ促シ特ニ土地調査ノ必  
要ヲ唱導シ且之ヲ實行シ以テ技術  
上ノ基礎ヲ固メタルモノニシテ其效果  
ハソ着々トシテ顯ハシ多額ノ米穀ヲ生  
産スルニ至リ朝鮮ノ農業今日ノ隆  
盛ヲ致シタリ 又日露戰役直後  
滿洲蒙古ノ奧地ニ赴キカラ千ニ  
王國內ヲ巡歴シ農業上重要ナル  
事項ヲ調査シ將來同地方ニ於  
ケル日本ノ權益開發ノ方策樹立

上大ニ貢獻スルトコロアリタリ 又  
其他從來、本邦水産教育ヲ  
見ルニ農商務省水産講習所、  
水産技術員養成シ目的トスルモノ  
北海道帝國大學水産專門部、  
高等實業教育シ授クルヲ目的ト  
スルモノアリニ過キサリシニ 同人ハ水産業  
ハ本邦重要産業、一ニシテ之カ基  
礎的研究及深遠ナル科 學上ノ  
理論應用、一日モ勿忘ニスヘカラサルヲ

文 部 省

痛感ニ最高學府ニ水産學科  
設置ノ必要ヲ提唱シ遂ニ明治四十  
三年四月東京帝國大學農學部  
ニ水産學科、設立シ見ルニ至レリ  
即チ本邦水産學上ノ基礎ハ同  
人ニ負フ所誠ニ大ナリト謂フヘシ 同人  
ハ教授トシテ水産製造論並水質  
論、ニ學科シ講セシカ 從來本邦  
水産工業及水産物加工ノ技術ハ  
甚夕幼稚ナリニ同ノ研究學理

應用ニ俟チテ頓ニ一大進歩ヲ見  
タルモノナリ即チ同人ノ研究成  
績ノ主ナルモノハ加熱又ハ防腐劑ニ  
依リ魚肉ノ硫化水素自然發生  
及細菌ニ基ク「シスチン」ノ分解シ  
明カニセシモノニシテ輸出食料品中  
ノ首位ヲ占ムル罐詰ノ品質ハ該  
研究ノ適用ニ依リ大ニ向上セラレ  
タリ特ニかに罐詰肉ノ變質黒  
變ニ關スル同人ノ研究ハ此種研

文部省

究ノ最初ノモノニシテ其原理ハ學術  
界ニ廣ク認メラレ之ニ基ク改良ノ  
結果輸出水産製品ノ聲價ハ  
大ニ高メラレ重要商品トシテ世界的  
ノ位置ヲ獲得スルニ至レリ尚食品  
ノ貯藏蛋白質ト腐敗細菌トノ  
關係、塩藏水産物ニ對スル食塩細  
菌ノ生理的研究ハ多數未知ノ事  
項ヲ闡明シ一般食料品加工製造  
上ニ革命的ノ機運ヲ與ヘ本邦



舊來ノ塩藏技術ニ一大進歩ヲ見  
タリ水質論ニ於テハ從來ノ單一  
分析的の研究ノ域ヲ脱シテ農藝化  
學ニ屬スル肥料動植物栄養生  
理ノ事項ヲ應用論及シテ水界生  
産ノ原理ヲ明セリ上述ノ如ク同人  
ハ教授トシテ學生ノ訓育指導ニ力  
致シ又其研究ハ斯學ノ進歩ニ大  
ナル貢獻ヲナシタルノミナラス實ニ本邦  
水産業ノ發達ヲ促進セシメ從來

文 部 省

動モスレハ劣等視セシタル本邦輸出  
水産物ヲミテ世界的地歩名聲  
ヲ贏チ得ルに至ラシメ為ニ輸出増  
額ヲ促シタルノ國家的功績ハ眞ニ  
偉大ニシテ且不朽ナルモノト謂フヘシ  
然ルニ這回病ニ卧シ加餐食之レ努メ  
シモ遂ニ本月十三日薨去セリ庶  
幾クハ此際如上ノ功績ヲ録セラレ  
特ニ生前ニ遡リ頭書ノ通勲章  
加授ノ榮ヲ與ヘラレシコトヲ右謹テ奏ス

昭和六年七月

文部大臣田中隆三

農林大臣町田忠治

拓務大臣原脩次郎



文  
部  
省

○故町田峻吉研究題目

(一) 論 說

- 一、海水又ハ食鹽中ニ存スル特種微生物ノ鹽藏魚ニ及ボス影響  
大正四年十一月 水産學會報 第一卷第二號
- 一、海水及ビ食鹽中ニ存スル特種微生物ノ鹽藏食品ニ及ボス影響  
大正四年十月 農學會報 第一五八號
- 一、加熱又ハ防腐劑ニヨリ魚肉ノ硫化水素自然發生  
大正五年十二月 水産學會報 第一卷第四號
- 一、水産製造ニ關スル二三ノ研究  
大正八年四月 水産學會報 第二卷第四號
- 一、魚類ノ肉蛋白質ニ關スル血清反應ノ研究  
大正十年六月 水産學會報 第三卷第三號
- 一、罐詰蟹肉黒色ニ變ズル原因  
明治四十四年七月 農學會報 第一〇八號

文 部 省

- 一、蟹肉黒變細菌學的研究  
明治四十四年九月 農學會報 第一一〇號
- 一、健康豚内ノ諸機管中微生物ノ存在ニ就テ  
明治四十二年十一月 農學會報 第一〇〇號
- 一、再ビ健康豚内ノ諸機管中微生物ノ存在ニ就テ  
明治四十四年十一月 農學會報 第一一一號
- 一、細菌ニ基ク「シスチン」ノ分解ニ關スル研究  
大正十二年七月 水産學會報 第四卷第一號

(二) 試験成績

- 一、蓼藍及其製品ニ關スル研究成績  
明治三十一年 農事試験場特別報告 第三號
- 一、印度藍ニ關スル調査及試験成績  
明治三十三年 農事試験場特別報告 第九號
- 一、海外輸入肥料及本邦調合肥料ヲ以テ  
施行セシ水田肥效調査試験成績ヲ評  
論シ併セテ應用的肥料試験ニ就テ所  
見ヲ述フ  
明治三十四年 農事試験場報告 第十九號
- 一、智利硝石ノ肥效及其所含過鹽素酸化  
物ノ有害作用  
明治三十五年 農事試験場報告 第二十一號
- 一、蒙古喀喇沁農事調査報告  
明治三十八年

文 部 省

On the Influence of Calcium and Magnesium Salts

on Certain bacterial Actions.

By S. Machida.

明治三十八年 歐文報告

第一卷第一號

(甲)

族籍	氏名	町田	氏名	氏名
東京府士族	(ローマ字傍書)	明	田	吉
本籍	東京府東京市麴町區下二番町十二番地	明治	年	拾貳月
現住所	東京府豐多摩郡中野町文園十六番地	貳	日	生
年號	學業官職賞罰等			
明治廿五年	七月十日帝國大學農科大學第二部卒業			帝國大學
全	年十月十二日農科大學助手ヲ命シ月給十五圓給與ス			全
全	廿六年五月廿六日依願解職			全
全	年六月七日任農事試驗場技師			內閣
全	年全日敍高等官九等			全
全	年全日九級俸下賜			農商務省
全	年六月十日敍從八位			官內省
履歷用紙				
東京帝國大學				
明治廿六年	七月十五日農事試驗場德島支場在勤ヲ命ス			農商務省
全	廿八年四月二日第四回內國勸業博覽會審査官被仰付			內閣
全	年全日第三部勤務ヲ命ス			第四內務局
全	年全月四日八級俸下賜			農商務省
全	廿九年二月廿二日陞敍高等官八等			內閣
全	年二月廿日年俸五百圓下賜			農商務省
全	年三月卅日敍正八位			官內省
全	年四月七日十二級俸下賜			農商務省
全	年四月十二日十一級俸下賜			全
全	年四月十七日農事試驗場東海支場長ヲ命ス			全
全	三十年四月十四日陞敍高等官七等			內閣
全	年五月卅一日敍從七位			官內省
全	卅一年八月廿四日陞敍高等官六等			內閣

全	年九月十九日	愛知縣主催第四回東海農區聯合共進會審 査官被命	農商務省
全	年九月卅日	叙正七位	官内省
全	年十一月廿五日	十級俸下賜	農商務省
全	年四月十五日	八級俸下賜	全
全	年六月廿一日	農事試驗場東海支場長ヲ免ス	全
全	年六月廿一日	農事試驗場本場在勤ヲ命ス	全
全	年九月十七日	農藝化學部勤務ヲ命ス	農事試驗場
全	年九月十七日	陞叙高等官五等	内閣
全	年十一月廿五日	叙從六位	官内省
全	年三月十七日	第二回山口縣物産共進會審査長ヲ命ス	農商務省
全	年一月十七日	第五回内閣勸業博覽會審査官被仰付	内閣
全	年	第一回勸務ヲ命ス	第五回博 事務局
明治	年七月十一日	七級俸下賜	農商務省
全	年	農事試驗場農藝化學部長ヲ命ス	全
全	年七月廿九日	陞叙高等官四等	官内省
全	年十一月十日	叙正六位	官内省
全	年六月十七日	渡瀬川沿岸續毒被害地々價修正事務ヲ囑託 ス	大藏省
全	年十月五日	前全文囑託ヲ解ク	全
全	年	續毒被害地含有銅分及地力ニ影響セル學理 上ノ調査ニ關シ盡力不尠ニ付手當トシテ金 三十圓給與ス	全
全	年五月五日	農事調査ノ爲清國蒙古へ差遣	外務省
全	年十一月廿日	陞叙高等官三等	内閣
全	年十二月廿二日	叙勳六等授瑞寶章	賞勳局

履歷用紙

東京帝國大學



全	年四月一日滿十四ヶ年以上在官ニ付金千五百拾六圓六拾六錢下賜	國へ留學ヲ命ス	文 部 省
全	四十二年六月廿三日外國留學滿期歸朝		
全	年七月十六日任東京帝國大學農科大學教授		内 閣
全	年全 日敍高等官三等		全
全	年全 日本俸九級俸下賜		文 部 省
全	年全 日水産學第三講座擔任ヲ命ス		全
大正二年	二月十三日陞敍高等官二等		
全	年全 日 東京帝國大學總長ノ推薦ニ基キ明治卅一年勅令第三百四十號 <sup>四</sup> 學位令第二條ニ依リ茲ニ農學博士ノ學位ヲ授ク		文 部 大 臣
全	年五月一日敍正五位		
履 歷 用 紙			
東京帝國大學			
大正二年	十二月廿七日敍勳四等授瑞寶章		
全	三年 四月十六日賜本俸八級俸		文 部 省
全	四年 十一月十日大正四年勅令第五百五十四號ノ旨ニ依リ大禮記念章ヲ授與セラル		賞 勳 局
全	五年 四月十七日海事水産博覽會審査官ヲ囑託ス		農 商 務 省
全	六年 二月八日賜本俸七級俸		文 部 省
全	年 十二月廿四日敍勳三等授瑞寶章		
全	八年 三月廿七日畜産工藝博覽會審査官ヲ囑託ス		農 商 務 省
全	年 四月一日官制改正		
全	年全 日俸給令改正		
全	年全 日賜本俸七級俸		文 部 省
全	年全 日東京帝國大學評議員ヲ命ス		全
全	年 六月卅日敍從四位		



全	年七月廿一日	賜本俸六級俸	文部省
全	九年八月十七日	俸給令改正	
全	年九月廿日	陞敍高等官一等	
全	年十月廿三日	第二回水産發明品及水産食品品評會審査ヲ	
		囑託ス	農商務省
全	十一年三月卅一日	賜本俸六級俸	文部省
全	年四月十七日	平和記念東京博覽會審査官ヲ囑託ス	農商務省
全	十二年四月廿四日	賜本俸五級俸	文部省
全	十三年十月十六日	補東京帝國大學農學部長	全
		職務俸金九百圓下賜	
全	年十一月一日	敍正四位	
全	十四年一月廿七日	敍勳二等授瑞寶章	
全	年二月廿日	第二回畜産工藝博覽會審査部長ヲ囑託ス	第二回畜産工藝博覽會總裁
履 歷 用 紙			
東京帝國大學			
大正十四年十一月十九日		賜本俸四級俸	文部省
全十五年十二月廿五日		昭和ト改元	
昭和二年十月十五日		依願東京帝國大學農學部長ヲ免ス	文部省
全三年十一月十六日		昭和三年勳令第百八十八號ノ旨ニ依リ大禮記念章ヲ授與セラル	實勳局
全四年十二月十六日		敍從三位	宮内省
全五年三月卅一日		賜本俸一級俸	文部省
全	年	日水産化學講座分擔ヲ命ス	同
全	年	日分擔講座職務俸金四百圓下賜	同
全	年	日依願免本官	内閣
全	年四月十五日	敍正三位	宮内省
全	年	日特旨ヲ以テ位一級ヲ被進	全
全	年六月二日	帝國大學令第十三條ニ依リ勳旨ヲ以テ東京帝國大學名譽教授ノ名稱ヲ授ク	内閣

全 六年七月十三日 並死去

前教員  
二年三月

内閣  
文部省  
第二十八号

一<sup>故</sup>町田咲吉勲章加授ノ件  
右上奏書及進達候也

昭和六年七月

文部大臣田中隆三

農林大臣町田忠治

拓務大臣原脩次郎



文  
部  
省

内閣總理大臣男爵若槻禮次郎殿



285